

月刊 やちまなこ

2011.6.15 発行

No. 163

6 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



鮮やかな新緑に包まれた林からエゾハルゼミの鳴き声が聞こえ、遠くからカッコウの鳴き声も加わり、釧路湿原に初夏の訪れを告げているようだ。

流れる風は花の香りとともに霧も運んで来るようで、次第に陽射しが弱くなり始めた太陽は、まるで満月のように湿原の空高く浮かんでいた。

コッタロ川と湿原のほとりから

132 6月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

寒くなく暑くもない季節程有難いものはありません。一進一退をくり返してようやく初夏にたどりついたコッタロは、内と外との温度差が殆んど無く、萌え出づる新緑の満を持しての爆発的繁茂によって、どちらを向いても深呼吸したくなる青葉若葉のシャワーと香りです。今年も丁度半年が過ぎようとしているこの時季、朝な夕な立ち込める濃霧か、はたまた霧雨のベールが、大地に芽吹く草花のどんなにさ細な部分にも等しく浸み入って開花を促す、そんな優しさで包み込むのでしようね。

庭を彩る満開の桜草は例年にない活力で、駒草と芋環の蕾がふくらみ次々に咲き始めても尚色あせず、ひと半月以上咲き続けているのも、不思議でなりません。

一方湿原を見廻って驚かされるのは、長年月しぶとく根を張りめぐらし乍ら生き続ける北ヨシの群落で、角ぐみ始めた竹ノ子の如き新芽が一晩で一体何cm伸びるかを測ってみる間もなく早50cmをゆうに越え



ており、右へ左へと突き出た細長くとがった葉先で行く手をはばみ、“我こそは、湿原の守護神”とばかり、立ちはだかろうとしているではありませんか。又水辺では、昼夜の別なく鳴り響くカエルのコーラス第二部が、もうひと月余り続いており、子孫繁栄に余念がない彼等の第一部で孵化した子供達の轟き合う様子をご覧下さい(写真左)。

ところで、ここでは珍客のツバメは今季、番で訪れ長時間おしゃべりしていたので、営巣にこぎつけるかも？との淡い期待にふるえたのですが、2～3日間の滞在に終わってしまい残念でなりません。が、それもそのはず、地廻りカラス3羽の険悪な視線に危険を感じたのは賢明な彼等にとって幸いだったのではないのでしょうか。

しかし嬉しいこともあって、例年欠かさず渡来するノゴマが独自のコロラチュラ、ソプラノを上機嫌で披露してくれたり、遅ればせに飛来し



た入内雀の砂浴に興じる面白い格好や、まるで入浴後美しく変身する人の様にだけが垢抜けしてエサなどついばみ(写真左)、は？と見れば、そのまんまという滑稽さ！に納得したのは『鳥の世界ではに美』を与えた神々の話で、目からウロコモパラパリ。

さて、本日(10日)で生後2ヶ月目を迎えた丹頂の幼鳥等は順調な仕上がりでこれ迄のところ双家族共トラブル無く、写真は丁度50日目を記録した第2コツ&タロの14,15羽目が夕暮れ時、塹へ帰る様子です。



湿原の住人たち その123

ミヤマカラスアゲハ

山地に多いカラスのような黒いアゲハ蝶ミヤマカラスアゲハは翅の色が美しい蝶です。黒いペロア生地のような翅色が、日差しの加減で輝いて見えたり、吸い込まれるように暗くなったりします。写真はあつと周辺に咲いたタンポポの花から花を渡りながら吸蜜していた春型です。時々、道路に飛び出して自動車と接触し命を落とすものもみかけます。ほぼ同じ時期に見られる、よく似た仲間のカラスアゲハには無い淡黄白色の帯が、後翅の裏側にあるのが目印のひとつです。春型は5月中旬から6月下旬に見られ、春型よりやや大きい夏型は7月中旬から8月下旬に出現し蛹で越冬します。運次第とはいえこの辺で見かける機会の多い所は、幼虫の食樹キハダ付近です。吸水の習性がある雄なら塘路湖岸の砂地もよいでしょう。意外と敏感で近付くと気配を察知されやすいので、足のはこびは慎重に！



「夏鳥ウォッチング」を開催しました

6月4日、憩の家かや沼駐車場からシラルトロ湖畔、蝶の森入口までのコースで夏鳥ウォッチング



ベニマシコのつがいを観察中

を開催しました。タンチョウコミュニティ代表の音成邦仁氏のガイドで、繁殖期特有の鳴声 さえずり を聞きながら、ゆっくり鳥の姿を探しました。巣穴に餌を運ぶゴジュウカラやムクドリがいて、後者はちゃっかり建物の換気口を巣にしていました。鳥合せて25種を確認した後、講師から「目の前の鳥が何かを調べる場合、声を手がかりにしたり、写真を撮ったりすることもあります。判断材料として野鳥の行動、場所、時期などの情報も重要です。」とアドバイスがありました。

皆さんも青々とした新緑の中で散策を楽しんでみませんか。

ネムネムのとうろうろう日記 Vol.31「若いって難しい！」

先月、調査で見慣れない水草を見つけました。「専門は植物だよな？」と同行者にいわれ、調べていくうちに、まさか本州の絶滅危惧種「ミズスギナ」？と植物の先生にお見せしたところ、北海道にごく普通に分布する「スギナモ」の若い状態ではないかと指摘があり、ちょっと残念。

また、この水草に思わぬ珍客が。水草の名前がわかるまでと、水を張ったバットに入れておいたところ、卵がついていたのか、いつの間にかヤゴがバットの中で泳ぎまわっていました。その数、合計14匹。水草の間をちょこちょこ泳ぎ回る様子がかわいい！とスタッフにも人気です。

しかし「これはなんていうトンボのヤゴなの？自然担当の学芸員だよな？」という質問に、今度は必死にヤゴを調べることに。ところが、検索表とあわず、なかなかわかりません。トンボの専門家に見せると「これヤゴじゃなくて、ゲンゴロウの仲間の幼虫だよ。」と予想外の答えが。若い生き物ってとにかく難しい！と頭を抱えています。

辻 ねむ(標茶町郷土館学芸員)

6がつ 4にち

ばしょ とうろ



体長約2cm。つぶらな腫に大きな口のかわいいヤツ。しかし、これがゲンゴロウになるとは・・・！

7月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

縄文土器作り（標茶町郷土館共催）

[日時]7/16 (土) 10:00～14:00

[定員・参加料]15名・300円

[場所]エコミュージアムセンターレクチャールーム

[持ち物]昼食、手拭きタオル、エプロン

お申し込み お問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

初夏の湿原花ハイク [日時]7/10 (日) 10:00～12:00

お申し込み お問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(5/17)ミヤマスマレ、ツルネコノメソウ、エゾオオサクラソウの蕾 (5/20)センボンヤリ、フデリンドウ、ヒメイチゲ、オオバナノエンレイソウ、アカネスミレ、ツボスミレ (5/27)エゾノウワミズザクラ (5/30)イタヤカエデ、オニグルミの雄花、エゾクサイチゴ (5/31)ハイキンボウゲ、コンロンソウ (6/5)クロユリ、ヒメイズイ、スズラン、シコタンキンボウゲ、クサノオウ、ワタスゲ (6/10)アヤメ、エゾニワトコ、ネムロブシダマ、ミヤマザクラ、エゾノコリンゴ、ナナカマド、シャク (6/12)ヒオウギアヤメ、ヤマブキショウマ

【鳥】(5/16)ツバメ50羽の群れ、ツツドリ、オオジシギ、マガモ、アオサギ、アオジ、タンチョウ (5/17)ヒガラ、シジュウカラ (5/20)アカエリカイツブリ、カワアイサ、ダイサギ、ツツドリ、ヤマゲラ、センダイムシクイ、エゾムシクイ (5/24)ヨシガモ (5/25)アマツバメ (5/29)ショウドウツバメ、コムクドリ、カワラヒワ (5/30)コマドリ、カッコウ、コサメビタキ (6/4)コヨシキリ、ピンズイ、キバシリ、コゲラ、ベニマシコ、オオジュリン、(シマ)エナガ、オジロワシ (6/10)エゾセンニュウ

【その他】(5/16)エゾシカ、キタキツネ (5/20)エゾシマリス、キアゲハ、ルリシジミ、スジグロシロチョウ (5/27)シダクロズメバチ (6/1)エゾオオマルハナバチ、ミヤマカラスアゲハ (6/4)エゾアカガエル (6/7)エゾタヌキ (6/9)エゾハルゼミ (6/12)エゾイトトンボ

シラルトロ木道は、木道一部破損のため閉鎖しています。

日出・日入時間 6/15(3:43,19:03)・6/30(3:46,19:06)・7/14(3:55,19:01)



塘路湖岸のヒオウギアヤメ(6/12)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00～17:00(11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料